

【準決勝】 A⑦ 7/14 開始 12:33 終了 14:39 所要 2時間06分

【審判】 藤山隆一郎、川崎仁、山崎光昭、原田武茂

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	打数	安打	打点	盗塁	盗塁死	犠打	犠飛	四死	三振	残塁	併殺	失策
長崎サニクリーン	0	3	1	0	1	0	0			5	24	6	4	0	1	3	0	5	6	6	0	1
三菱重工長崎	0	1	0	1	0	2	0			4	24	7	3	0	0	3	1	6	3	8	1	1

【二塁打】 西将正、草野青空、平田諒馬、久保田優希(サニ)、植杉真行(三菱)

【長崎サニクリーン】	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 草野 青空 24	右安	左中二	...	四球	...	投ゴロ	...
⑦ 平田 諒馬 24	投犠打	右線二	...	投ゴロ	...	三飛	...
④ 里山 達也 31	四球	二ゴロ	一ゴロ	...	三振
③ 久保田優希 25	三振	...	右線二	...	四球	...	三振
⑨ 野口 昇馬 23	捕飛	...	投犠打	...	投犠打	...	三内安
⑤ 西 将正 23	...	左越二	三ゴロ	...	左飛失	...	(二盗死)
② 奥田 楓 23	...	三振	遊ゴロ	...	死球
① 牧 悠弥 22	...	四球	...	一邪飛	三振
⑥ 佐々田伸弘 30	...	三振	...	中飛	...	右飛	...
長崎サニクリーン	0	3	1	0	1	0	0
	1	2	3	4	5	6	7
三菱重工長崎	0	1	0	1	0	2	0
【三菱重工長崎】	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 植杉 真行 26	投ゴロ	...	右越二	...	二ゴロ	中安	...
④ 稲澤 和也 27	一ゴロ	...	中飛	...	四球	三飛	...
③ 富岡 壮馬 28	三振	...	二ゴロ	...	三振	...	四球
⑧ 吉原 貴大 26	...	中安	...	三ゴロ	中飛	...	左飛
② 坂田 竜徳 28	...	一犠打	...	四球	...	左安	投犠打
⑥ 原 征一郎 29	...	1E-4	...	右安	...	死球	死球
⑨ 小林 陸 19	...	一犠打	...	四球	...	遊ゴロ	遊ゴロ
① 楠本 健次 27	...	左安
1 山口 宰 29	左安	...	右犠飛	...
⑦ 梅井 翔太 19	投ゴロ	投ゴ併	...	三振逃	...

1点差を逃げ切り長崎サニクリーンが6年連続6回目の天皇賜杯県大会出場で初の決勝戦進出を決めた。

サニクリーンは初回到先頭安打の草野が犠打野選と四球の無死満塁の得点機を逸すると、二回到先頭二塁打の西が捕逸三進。牧が四球の二死一三塁に草野の左中間二塁打で二者が還り先制。続く平田も右線二塁打し加点。三回にも先頭の久保田が右線二塁打し犠打三進後に西の三ゴロ送球の間に還り1点追加。四回到代わった山口に対しても、五回到四球を得て犠打二進した二死後に敵失で加点し、結局これが決勝点。

サニクリーンは6安打のうち二、三回の長打4本が、全て得点に絡む効果打となった。

三菱重工長崎は平成30年間に29年度まで9回の県代表。準優勝は昨年を含めて3回で何れも親和銀行の後塵を拝していた。

二回到先頭の吉原が中前打。犠打二進後に悪送球が絡んで1点を返すと二死二塁に楠本が左安打。三塁を廻った原が返球で本塁死し追加点を奪えなかった。三回にも一死後に植杉が右越えエンタイトル打し中軸に廻したが、右飛(三進)と二ゴロで本塁に還れず。

四回の重工は原の右安打を間の2四球で一死満塁。この回から登板している山口が左前打し三走が還る。尚も満塁に投ゴロが捕手→一塁と渡る併殺打で絶好の同点機を逸した。

五回到1点加点され3点差を追う六回。坂田が先頭安打し死球の一二塁は一死一三塁となったところで山口の右飛が犠飛となり、三振振り逃げの一二塁に植杉の中前打で二塁から小林が生還し1点差に迫る。最終七回は先頭が四球。強行策で4番の吉原は左飛後に坂田の犠打で二進。原が四球の一二塁に長打が出れば逆転サヨナラの場面を、前試合の佐世保市役所戦で登板の無かったサニクリーンの牧から小林が遊ゴロに仕留められて、平成元年以降13回目の決勝戦進出を阻まれた。